

識改革に関して、「主体的に自らを啓発する気構えを持つて対応できる職員の醸成に努める」と述べていますが、具体的によろしく職員の意識の醸成を促していくのかを伺いたい。

将来的に 合併を考えると 時期が来ると 答えた

町長 ①財政状況などに対する質問への回答ですが、



5年後の財政状況をどう見るかでは、一番多かった回答が「今よりも悪化する」が63・1割で私もここに丸を付け、地方交付税の見直しで一番多かったのは「減少する」というのが60・8割で私もここに丸をつけました。公営企業会計や特別会計の赤字についてどう思うかでは、「赤字はない」と回答し、地方公社などの債務補償や損失補償についても「ない」が64・2割で私も同じ回答をしています。

財政健全化に向けた具体的な柱は何かの問いに対しては、「人件費削減」と回答した市町村が随分あるかと思いますが、これについてはご承知のとおり既にいち早く4年前から実施している状況があり、これから進めるとい内容ではありません。

市町村合併についての質問では、私としては「将来的に考える時期が来ると思う」という項目に回答しました。

②職員の意識醸成については、合併や広域連携においても職員の能力が重要になってきますので、研修制度等で育成していくかなければならないと思っています。

Q 「放課後子どもプラン」で学童保育をやらぬか

A 20年度本格実施に向け取り組みたい



茂呂竹議員 「放課後子どもプラン」は、少子化対策を

強力・効果的に進めるために、昨年5月関係大臣の合意によりできたが、その後、地域の大人の協力を得て家庭の経済力にかかわりなく学ぶ意欲のある子どもたちに、放課後や週末などに地域の中で安全、安心に学習できる機会と活動拠点づくりなど、子どもの放課後の安全を守る施策として政府の方針に位置づけられています。

このプランでは、新たに放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業（学童保育）をあげ、両方を一体的又は連携して行うためプランの事業運営組織を設け、できるだけ小学校内で行うとなっ

ており、全ての小学校区で実施をめざし、それぞれ2万カ所を目標に、07年度文科省137億6千万円、厚労省189億7千万円を予算化しています。

この施策を積極的に活用し既に実施している児童館事業を更に豊かにすると共に、特に共働きの多い津別町で長く待ち望んでいる学童保育の実施に向けて計画を立ててはどうか。学童保育は、登録制で家庭に代わる子どもたちの生活の場であり、指導員が親代わりで、子どもたちは家庭と



児童館で学習する子どもたち

同じように宿題をしたり、おやつを食べたり、異年齢の集団の中で成長します。子どもが学校に出来ない場合、指導員が学校と連絡をとって状況を聞くなど対応するので、親としても非常に安心できます。子どもの豊かな放課後と働く親が安心して働ける社会づくり、地域づくりを是非目指していただきたいと思えますので、考え方を伺います。

教育長 近年の急激な少子化や核家族化の進行、共働き世帯の増加など今日の社会的背景を踏まえて、放課後の子どもたちの健やかで安全な居場所づくりを推進するため、文科科学省と厚生労働省の事業を一体的あるいは連携して実施する総合的な放課後対策として「放課後子どもプラン」が打ち出されました。昨年12月に教育基本法が改正され、社会教育の大きな柱として、家庭教育の向上と地域・家庭・学校の連携強化、生涯学習の重要性が明記されました。これは、学力の向上

だけでなく、今日の大きな社会問題となっている、子どもが被害者となる悲惨な事件やいじめ問題・少年犯罪・家庭崩壊虐待などの解決には心の面の教育や、学校・家庭・地域などが連携して、子どもが健やかに成長できる環境の充実が喫緊の課題として示されたものと思います。今後、

「放課後子どもプラン」の導入をはじめ、家庭教育力を向上させるための事業、また地域のきずなや家庭のきずなを深め、地域の教育力や一体感を高めるための事業の取り組みなどについて、この町に住む子どもたちの健全育成への支援を行うべく検討しているところですが、具体的には、ま

ず19年度は、留守家庭児童に対する放課後児童健全育成事業を保健福祉課と連携しながら関係する機関、団体などで構成する運営委員会を立ち上げ、20年度からのスタートを念頭に置いて協議・検討・調査を進め、場所の選定を含めた環境整備や人材の発掘・登録・養成等を行っていきます。

は、長い間我が町にとって地域振興と活性化の中心的な施設だっただけに、このスキー場の撤退により、特に今まで頑張ってきた地元の民間宿泊施設や、既に厳しい経営状況になってきているホテルフォレストにとっての影響は必ず至大だと思います。

Q 町の将来に向けての対話行政の進め方を示せ

A 当面の使命は推進計画を進めていくこと



え方、進め方について確たる基本理念を持って対話行政に臨んでいくのか。それとも町民と新たな意見を聞きながら考えていくのか。その方向性と道筋をつけていくべき時と思う方が、考え方を伺います。

町長 当面、私に与えられている使命は自主・自立のまちづくり推進計画をいかに進めていくことです。それを点検しながら前へ進んでいき、まずは、自分の町がしっかりしていくことを目指して行きながら、ひよつとしてその先に合併があるかも分かりませんが、一方で夕張市のよ

うな問題などが出てきていますので、町民の皆さんの中では、あそこまでいく前に例えば合併やあるいは広域行政とか考えられないのかというの、は私自身も直接聞いていますので、これからの流れや動きを注視していく必要があり、このことに対しては頭に入れないからその方向性をいろいろと見ているところです。

このことに対しての今後の対策として、上里地区の市町村の森の周囲などの整備、活用を図りながら、夏・冬通しの交流人口の拡大につながるような新たな振興策は考えられないのか伺います。

グリーンツーリズムを応援していきたい

町長 津別スキー場が今シーズン限りで終了したことにより、この先ホテルフォレストや民間宿泊施設にも影響が勿論でてくると思います。特に、フォレストも今、大変厳しい状態になってきており、相当の危機感を持って、今までの業務の見直しや営業努力をもっとすべきでないか、いろいろと現状分析をする必要があり、一方では指定

また、民間宿泊施設も大変だと思えますので、今年グリーンツーリズム（農山村の自然と文化、人々との交流をありのままに楽しむために、その土地を訪れる余暇形態で、民宿などが様々な体験型メニューを設けている。）ということで、網走支庁と連携をとり修学旅行の誘致など、町としてできるだけ経済効果が生まれるように応援していきたいと考えています。

白馬議員 対話行政を進める上において、町としてさまざまな面で近隣自治体との広域連合と合併については、避けて通れない問題と強くとらえています。また、このことは町民の大きな関心事でもあり、今後町民との直接対話で質問なども多いと想定されます。町長は、将来の方向、考

え方、進め方について確たる基本理念を持って対話行政に臨んでいくのか。それとも町民と新たな意見を聞きながら考えていくのか。その方向性と道筋をつけていくべき時と思う方が、考え方を伺います。

白馬議員 津別スキー場
スキー場撤退後の
新たな振興策は
考えられないか



上里地区の市町村の森は素晴らしい森ですし、クリン草も大変評判もいし、自然を楽しみながら歩くにも良い所ですので、あの辺り全体をも一度再整備していきたいと考えています。